



バックエンド部会 2020年度部会表彰

2020年度バックエンド部会賞 受賞要件



功績賞

バックエンド分野において幅広くかつ顕著な貢献のあった個人、毎年1名以内

業績賞

バックエンド分野において顕著な学術または技術上の業績のあった個人またはグループ、毎年2名以内もしくは1グループ以内

奨励賞

バックエンド分野において顕著な学術または技術上の業績のあった概ね40才までの個人、毎年3名以内

功績賞



受賞者

かとう かずゆき
加藤 和之

殿（原子力損害賠償・廃炉等支援機構）

選考理由：

候補者は、大学、事業者、研究開発機関等の在職中、バックエンド分野の研究開発に従事し、これまでに数多くの原著論文や技術報告書として発表するなど、成果を挙げてきた。特に、中深度処分に関する事業者側の技術検討を牽引して制度化の見通しにつなげたことは特筆すべき功績であり、長年にわたり我が国のバックエンド分野の発展に大きく貢献してきた証左と言える。

学会においては、標準委員会原子燃料サイクル専門部会委員副部会長・幹事等を歴任し、バックエンド分野の現場に活用される数多くの学会標準の発行に貢献してきた。またバックエンド部会では運営委員を務め、部会主催のセミナーや企画セッションでは多数講師を務めるなど、組織運営ならびに同分野での学術活動への貢献も顕著である。

近年は、原子力損害賠償・廃炉等支援機構に籍を置き、福島第一原子力発電所事故廃棄物の処理処分に関する技術・研究開発戦略を主導している。国際的な情報発信・協力体制の整備も進めるなど、福島原発の廃炉に向けた我が国の技術・研究開発が着実に進んでいること、今後数十年にわたる取り組みの基礎を築いたことは、まさに候補者の大きな功績である。

以上、候補者のバックエンド分野における功績は著しく、功績賞に値するものと思料する。

功績賞



受賞者

かとう かずゆき
加藤 和之 殿

(原子力損害賠償・廃炉等支援
機構)

表彰状 功績賞 加藤 和之 殿

貴殿の原子力バックエンド分野の
発展に寄与された功績はまことに
顕著であります
よってここに表彰します

令和3年3月17日

一般社団法人 日本原子力学会バックエンド部会

部会長 杉山 大輔

業績賞



受賞者

JAEA東濃地科学センター 殿

(日本原子力研究開発機構)

選考理由:

推薦理由1:結晶質岩(花崗岩)を対象とした調査研究

瑞浪超深地層研究所は我が国唯一の、世界でも数少ない結晶質岩を対象とした地下研究施設の一つであり、同研究所で得られた知見は、地層処分研究開発における地質環境の評価のための体系的な調査・解析・評価技術の基盤の整備や、深地層における工学技術の基盤の整備に反映され、国内外の地層処分研究の進展に大きく貢献した。

推薦理由2:地層処分事業および人材育成への貢献

瑞浪超深地層研究所で得られた成果は、実施主体である原子力発電環境整備機構の技術報告書類に広く活用されているほか、同研究所の地下坑道を活用した講座や実習を通じて国内外の技術者の育成に顕著な貢献があった。

推薦理由3:研究坑道を活用した研究協力

産業技術総合研究所、岡山大学、東京大学、名古屋大学、清水建設、西松建設、地震予知総合研究振興会東濃地震科学研究所等との間で、研究坑道等を利活用した共同研究を含む研究協力や施設利用が数多く実施された。

推薦理由4:理解促進活動への貢献

児童・生徒の地層の科学などに関する学習施設としての活用や多くの見学者の受け入れ等も積極的に進められ、開かれた地層処分事業の理解促進にも大きく貢献した。

業績賞



受賞者

JAEA東濃地科学
センター 殿

(日本原子力研究開発機構)

表彰状
業績賞
JAEA 東濃地科学
センター 殿

貴殿の原子力バックエンド分野の
発展に寄与された業績はまことに
顕著であります

よってここに表彰します

令和3年3月17日

一般社団法人 日本原子力学会バックエンド部会

部会長 杉山 大輔

奨励賞



受賞者

すぎうら ゆうき
杉浦 佑樹

殿（日本原子力研究開発機構）

選考理由：

日本原子力研究開発機構において、地層処分環境中におけるバリア材への放射性核種の収着挙動に関する研究に取り組んできた。収着は放射性核種の移行を支配する重要な現象であり、地層処分評価における中核的な安全機能の一つとして位置づけられる。被推薦者は、収着評価における重要な課題であった還元環境でのSe(-II)の収着挙動解明のため、雰囲気制御下でのSe(-II)の価数をモニターした条件での収着データを取得するとともに、XAFS分析による収着形態の観察を行い、粘土鉱物(モンモリロナイト)の表面においてSeは-II価から0価に酸化されていることを示した。また、セメント共存下でのCaの存在が他の核種の粘土鉱物に対する収着に及ぼす影響を評価するため、Caと複数の核種の収着競合データを取得し、その結果を熱力学的収着モデルによって再現可能なことを示した。これらの収着試験と分光分析および熱力学的収着モデルを組み合わせた手法は、多様な地質環境における収着挙動の予測を可能とし、地層処分の安全評価の信頼性向上に大きく貢献するものである。さらに、被推薦者は、名古屋大学大学院生命農学研究科の博士課程において、福島第一原子力発電所事故由来の放射性セシウムの中における動態研究に取り組み、森林における土壌から植物への移行に焦点を当てた論文3報を、筆頭著者として国際誌で発表するなど、顕著な成果を挙げている。

奨励賞



受賞者

すぎうら ゆうき
杉浦 佑樹 殿

(日本原子力研究開発機構)

表彰状

奨励賞

杉浦 佑樹 殿

貴殿は原子力バックエンド分野に
関する学術および技術上の優秀な
成果を挙げられました
よってここに表彰します

令和3年3月17日

一般社団法人 日本原子力学会バックエンド部会

部会長 杉山 大輔

2020年度バックエンド部会賞 受賞要件



優秀講演賞

バックエンド分野に関する，日本原子力学会またはバックエンド部会が主催・共催する行事において優れた口頭発表をおこなった個人を対象。各行事で原則1件以内。また，学生優秀講演賞を別途設置する場合には，各行事でさらに1件を追加。

ポスター賞

バックエンド分野に関する，日本原子力学会またはバックエンド部会が主催・共催する行事において優れたポスター発表をおこなった個人を対象。各行事で原則1件以内*。

* バックエンド夏期セミナーで2名が同点1位であったため、審議の結果、両者を表彰。

優秀講演賞



2020年秋の大会 受賞者

だいどう ひろゆき
大道 博行 殿

(レーザー総研)

選考理由:

2020年秋の大会の口頭発表2D17「レーザー加工により発生する微粒子の解析と核種同定手法の開発(3)_(2)レーザー照射金属、セラミックス、コンクリートにおける微粒子発生 の考察」について、「“優秀講演賞”の評価基準」に基づく採点の評価結果による。

表 彰 状 優秀講演賞 大道 博行 殿

貴殿は日本原子力学会 2020 年秋の大会において優秀な口頭発表を行った研究者と認定されました
その栄誉をたたえこれを表彰します

令和3年3月17日

一般社団法人 日本原子力学会バックエンド部会

部会長 杉山 大輔

学生優秀講演賞



2020年秋の大会
受賞者

ハイルン
Chaerun
ラウダトゥル イスラム
Raudhatul Islam
殿

(北海道大学)

選考理由:

2020年秋の大会の口頭発表1B09「Retension Mechanism of Cesium in Chabazite Embedded into Metakaolin-Based Alkali Activated Materials」について、「“学生優秀講演賞”の評価基準」に基づく採点の評価結果による(同点評価)。

表彰状
学生優秀講演賞
Chaerun Raudhatul
Islam 殿

貴殿は日本原子力学会 2020 年
秋の大会において優秀な口頭発表を
行った研究者と認定されました
その栄誉をたたえこれを表彰します

令和3年3月17日

一般社団法人 日本原子力学会バックエンド部会

部会長 杉山 大輔

学生優秀講演賞



2020年秋の大会 受賞者

おかむら ともひろ
岡村 知拓 殿

(東京工業大学)

選考理由:

2020年秋の大会の口頭発表2D03「21世紀後半に向けた廃棄物管理の選択肢:Pu利用推進と環境負荷低減型地層処分に関する研究__(17)処分場面積削減に対するバックエンドプロセスの時間因子と廃棄体定置方式の組合せに関する研究」について、「“学生優秀講演賞”の評価基準」に基づく採点の評価結果による(同点評価)。

表 彰 状
学生優秀講演賞
岡村 知拓 殿

貴殿は日本原子力学会 2020 年
秋の大会において優秀な口頭発表を
行った研究者と認定されました
その栄誉をたたえこれを表彰します

令和3年3月17日

一般社団法人 日本原子力学会バックエンド部会

部会長 杉山 大輔

ポスター賞（表彰済）



第36回バックエンド夏期セミナー

受賞者

なかばやし りょう

中林 亮

殿（電力中央研究所）

選考理由：

第36回「バックエンド」夏期セミナー（2020年8月）ポスターセッションの発表「低酸素環境下でSUS316L粉末から浸出するC-12化学種の生成機構」についての評価結果による。

とんな りゅうたろう

頓名 龍太郎

殿（京都大学）

選考理由：

第36回「バックエンド」夏期セミナー（2020年8月）ポスターセッションの発表「模擬核分裂生成物を含む二酸化ウランの溶解に及ぼす炭酸影響」についての評価結果による。

2020年度バックエンド部会賞 受賞要件



論文賞

部会誌「原子力バックエンド研究」に掲載された過去3年間の論文を対象。毎年1編以内。ただし、主著者が同一であり、複数の論文が一連となっている場合は、1編とみなすことができる。

功労賞

バックエンド部会の発展に顕著な功労のあった個人を対象。平成27年度新設。毎年2名以内。

本年度は功労賞の該当者はナシ。

論文賞



受賞者

やまぐち まさあき
山口 正秋 殿（日本原子力研究開発機構）

かとう さとこ
加藤 智子 殿（日本原子力研究開発機構）

すずき ゆうじ
鈴木 祐二 殿（NESI）

まきの ひとし
牧野 仁史 殿（日本原子力研究開発機構）

選考理由：

部会誌「原子力バックエンド研究」Vol.27-2(2015.12)に掲載の論文「地層処分における隆起・侵食影響評価のための地形・処分場深度変遷解析ツールの開発」について、「“論文賞”の評価基準」に基づく採点の評価結果による。

論文賞



受賞者

やまぐち まさあき
山口 正秋 殿

(日本原子力研究開発機構)

かとう さとこ
加藤 智子 殿

(日本原子力研究開発機構)

すずき ゆうじ
鈴木 祐二 殿

(NESI)

まきの ひとし
牧野 仁史 殿

(日本原子力研究開発機構)

表彰状

論文賞

山口 正秋 殿 加藤 智子 殿
鈴木 祐二 殿 牧野 仁史 殿

部会誌「原子力バックエンド研究」Vol27-2 に
掲載の論文「地層処分における隆起・侵食影響評
価のための地形・処分場深度変遷解析ツールの開
発」は令和2年度における論文賞に選考されま
した

その栄誉をたたえこれを表彰します

令和3年3月17日

一般社団法人 日本原子力学会バックエンド部会

部会長 杉山 大輔

受賞者からひとこと



功績賞を受賞して **加藤 和之** 様



この度はバックエンド部会功績賞をいただき大変光栄に存じます。現在取り組んでいます1F廃棄物対策は、バックエンド分野の知見を総動員する必要があります。

バックエンド部会の皆様の更なるご活躍を祈念するとともに絶大なるご支援をお願いいたします。

受賞者からひとこと



業績賞を受賞して **JAEA東農地科学センター** 様
代表として **伊藤洋昭** 所長より



この度は、東農地科学センターの取り組みに対しバックエンド部会より「業績賞」をいただき、大変光栄に存じます。

岐阜県瑞浪市において、平成14年度に瑞浪超深地層研究所の建設に着手し、所期の成果を挙げ令和元年度に研究を終了するまで、企業、関係研究機関や大学の研究者の方々など多数の方々からご協力をいただき深地層の科学的研究を進めることができました。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

当センターでは、地層処分の実現に向け貢献すべく、引き続き地質環境の長期安定性に関する研究に取り組んでまいります。今後とも、皆様方のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

受賞者からひとこと



奨励賞を受賞して 杉浦 佑樹 様



この度は奨励賞をいただき、大変光栄に思います。福島原発事故由来の放射性セシウムの環境動態研究からバックエンド分野と関わり、現在は高レベル放射性廃棄物の地層処分環境における核種移行研究を行っています。

地層処分研究は私にとってこれまでのバックグラウンドとは異なる知識が要求される分野ですが、日々新しいことを学ぶことができ、大変やりがいを感じております。今回の受賞を励みに、地層処分の信頼性向上と実現に少しでも貢献できるよう、より一層研究活動に精進してまいります。

受賞者からひとこと



2020年秋の大会 優秀講演賞を受賞して 大道 博行 様



この受賞を契機に、さらに研究に打ち込みたいと思っております。
今後ともよろしくお願いいたします。

2020年秋の大会 学生優秀講演賞を受賞して 岡本 知拓 様

受賞コメントは後日追加予定

2020年秋の大会 学生優秀講演賞を受賞して Chaerun Raudhatul Islam 様

受賞コメントは後日追加予定

受賞者からひとこと



論文賞を受賞して **山口 正秋 様** 共著者 **加藤 智子 様、鈴木 祐二 様、
牧野 仁史 様** を代表して



このたびは私共の研究論文「地層処分における隆起・侵食影響評価のための地形・処分場深度変遷解析ツールの開発」を論文賞に選定いただき、誠にありがとうございました。

このような栄誉ある賞を頂き、著者一同、大変光栄に感じております。本論文の作成にあたり貴重なご意見をいただいた査読者のみなさま、編集委員のみなさまをはじめ、本論文に携わっていただいた方々に心より感謝申し上げます。

本受賞を励みに、今後もより一層精進して参りたいと思います。



Fin.